

定例教育委員会【議事録】

日 時 令和5年8月9日(水)
9時30分～

場 所 やまびこスケートの森
署名委員 太田教育長職務代理者、高木委員

【次 第】

○ 開 会

○ 教育長あいさつ

○ 教育委員会報告

○ 議 題

1. 今後の教育振興基本計画(国、県)について【資料No.1】 (教育総務課)
2. 令和6年度から使用する岡谷市立小学校の教科書採択について【資料No.2】
(非公開) (教育総務課)

○ 報 告

1. 令和5年6月定例会の一般質問について【資料No.3】 (各課)
2. いじめ根絶子ども会議Ⅲについて【資料No.4】 (教育総務課)
3. 市史編さん準備室 視察について【資料No.5】 (市史編さん準備室)

○ そ の 他

- ・行事等について(各課)
- ・その他

【次回開催予定】9月8日(金)9時30分～ 岡谷美術考古館 3回多目的スペース

出席委員

教育長 宮坂 享、教育委員 太田 博久、教育委員 高木 千奈美、教育委員 藤森 一俊、
教育委員 小平 陽子、教育委員 林 慎太郎

事務局(説明員)

教育部長 白上 淳、教育担当参事 両角 秀孝、教育総務課主幹指導主事 濱 敦志、
生涯学習課長 伊藤 恵、スポーツ振興課長 小松 隆広、市史編さん準備室長 小池 秀昭、
教育総務課学校教育主幹 味澤 勝一、教育総務課教育企画主幹 西山 塁、
子ども総合相談センター主幹 長谷川 智康、
川岸学園設立準備室川岸学園設立準備主幹 新村 尚志、教育総務課主任 大島 俊輔

<会議録>

○開 会

宮坂教育長： それでは、ただいまより令和5年度8月定例教育委員会を始めたいと思います。

本日の署名委員は太田教育長職務代理者と高木委員にお願いいたします。

○教育長あいさつ

宮坂教育長： はじめに私から挨拶をさせていただきます。皆様おはようございます。

本当に暑い日が続きます。この暑さで私の脳裏にはサルスベリの花が浮かびます。京都に進学した友人と、京都奈良の寺院を散策したことがあります。どこの寺院にもサルスベリの花が本当に綺麗に咲いていました。暑さと重なる私の季節感であります。

サルスベリの名前の由来は皆様もご存知のように、表皮がツルツルしていて猿もつかまれないということのほか、漢字で「百日紅」と書くのですが、房の花が次々に咲くところから、紅の百日花でサルスベリと読む由来もあるそうです。我が家にも一本赤いサルスベリがあるのですが、剪定はとても楽です。本当に強く、庭木にはとても良い花です。

さて、先週から東伊豆への交流と、広島での平和体験に行かせていただきました。東伊豆の交流は8月3日、4日でありましたが、3年ぶりの交流活動でした。東伊豆の皆様が本当に温かくて、頭を下がることばかりでした。子どもの様子を見てみると、あっという間に子ども同士が仲良くなっていました。最後の日は別れ惜しむ姿もたくさん見られました。子どもたちの交流の中から繋がりが生まれ深まっていく姿がとても良いと思いました。同時にリーダーズクラブの活動の良さがよく見えた2日間でした。

8月5日から7日まで、広島の平和体験研修に行きました。帰りのバスの中で行われた、中学生20人のディスカッションが見事でした。中学生の言葉に感動しました。

具体的には、「1人では核兵器を廃絶するなどの活動については、できないから僕は生涯かけて、この活動をやっていきたい。」「僕は行動を起こす勇気と自信がこの3日間で湧いてきた。でもゴールはここでは無い。また日々の生活の中での活動を頑張っていきたい。具体的には、喧嘩を止めたり、友達の笑顔があふれるように後押ししていきたい。」

3日間の体験の中で学んだことが本当に多かったと思います。たくさん子どもたちを送ってくださる岡谷市の施策についても、本当にありがとうございました。

7月24日には教職員悉皆研修がありました。福井大学の木村優先生の講演の後に熟議をしました。良い感想を言ってくれた先生がいましたので報

宮坂教育長： 告します。「自分自身の学びを止めてはいけないと感じた。自分自身が常に学び変わり、続けていくことで、子どもたちの学習に還元したいと思う。また、自分自身の知識やスキルを磨くことに目が向きがちだが、周囲の先生方との関係づくりも大切だと思う。」

木村先生の講演に心動き、2学期からこんなことをしていきたい、そんな若い先生方の言葉が輝いて聞こえました。夏休みも3分の2が過ぎました。子どもたちは充実した夏休みを送っているように思います。今のところ大きな事故等の報告はございませんので、安心していただいております。

7月28日にNHKの合唱コンクールが行われ、岡谷から6校参加しました。3校は県大会へ出場します。子どもたちの本当に美しい歌声がカノラホールに響き渡っております。

同日、神明小学校の子ども未来塾に参加しました。5年生の17人が参加しており、黒板には「算数の苦手をなくし、2学期へつなげよう」と板書されておりました。ドリルや夏休み帳をそれぞれ一生懸命取り組んでおりました。子どもたちは様々な催しなどに参加しながら貴重な体験をしているようです。夏休み後に、充実した顔で子どもたちが一回り心を大きくして登校していることを願っております。

続きまして、教育委員会報告をさせていただきます。報告につきましては、白上教育部長よりお願いいたします。

白上部長： それでは、本日も何点か報告させていただきます。最初に教育総務課関係についてであります。

今年度も夏休み中の小学校におきまして、「おかや小学生夏休みわくわくサマースクール」が行われました。この事業は、学校の先生方が行う補習の時間「スキルアップ学習」と、教員OB等の講師の皆さんにご協力いただき、5年生の算数の苦手を解消する「岡谷子ども未来塾」5年生版のほか、今年度は小学3年生から6年生対象とした「ものづくり体験プログラム」も組み合わせて7月25日から8月2日までの間、各校で実施し、延べ918人の児童が参加いたしました。

学校と市教育委員会の連携による一体的な事業とすることで、子どもたちの学習習慣の形成を促し、苦手意識の解消、基礎的学力の向上を図る目的で取り組んでいます。

このうち子ども未来塾の様子では、5年生81名が参加し、それぞれが夏休み帳やタブレット端末を使いながら集中して問題に取り組む姿が見ら

白上部長： れ、夏休み後半、そして2学期以降の学びへとつながるよい機会になったと思います。

また、中学生を対象としたキャリア教育の一環として、夏休み中に学童クラブでの仕事を自主的に体験できる「学童WORKWORK体験事業」を例年実施しております。今年は7月27日から8月4日までの7日間で、市内学童クラブ10か所が受け入れを行い、27名の中学生が参加いたしました。学童クラブ指導員の職業を体験し、子どもたちとの交流を通じて、働くことの意義やコミュニケーションの大切さについて学んでもらう機会になったと思います。

続きまして、生涯学習課関係の報告をさせていただきます。

美術考古館では、移転開館10周年を記念し、7月15日から9月18日まで、神田さおり展と、天王垣外遺跡の勾玉・管玉の里帰り展示の2つの特別企画展を開催しております。

その特別企画展の一環として、7月29日に踊絵師 神田さおりさんによるアートセレモニーを開催いたしました。100人を超える観客を前に、純白の岡谷シルクの衣装を身にまとった神田さんが、打楽器の生演奏や歌などの音楽に合わせて踊りながら、様々な色の絵の具を手にとり、巨大キャンバスに手のひらや爪を使って、今回のテーマである諏訪湖の龍と縄文の女神を想起させる生命力に満ちた作品を約1時間かけて完成させました。神田さんの関連イベントにつきましては、今後、岡谷蚕糸博物館において、「アーティスト インレジデンス」や「キッズワークショップ」を開催するほか、岡谷美術考古館では20日にシルクヴェールを描き染める公開制作などが予定されております。

また、美術考古館の特別企画展の一環として、8月5日にカルチャーセンターにおいて「天王垣外遺跡出土の玉類が意味するもの」と題し、長野県立歴史館の職員を講師に迎え、講演会を開催いたしました。約70人が来場され、弥生時代の岡谷市の状況や玉類の産地に関する考察、なぜこれほど多くの玉類が一箇所から出土したのかなど、興味深いお話をお聞きしました。

美術考古館移転開館10周年という節目にあたり、今後も「文化を核にしたまちづくり」の拠点施設の一つとして、これまで以上に魅力的な企画を提供してまいりたいと考えております。

最後にスポーツ振興課関係を報告させていただきます。

7月23日に岡谷市スポーツ協会の加盟団体等によるボランティア清掃が行われました。

この清掃作業は、毎年岡谷市スポーツ協会の恒例行事として、日頃の施

白上部長： 設利用に対して感謝の気持ちを表すため実施しているものであります。

当日は、市民総合体育館をはじめ市宮庭球場、市民水泳プールを利用する各加盟団体等から約200人が参加し、施設の担当職員の指示に従って、館内の窓拭きや器具庫の整理、ごみ拾い、草取りなどに取り組みました。

これからも、市民のスポーツ活動の拠点として、多くの皆様に気持ちよく利用していただけるよう大切にしていきたいと思います。

教育委員会からの報告は以上であります。

宮坂教育長： ありがとうございます。ただいま報告した内容に関しまして、教育委員の皆様から何か質問はございますか。

それでは本日の議事に入りたいと思います。

議題1「今後の教育振興基本計画（国、県）」について事務局より説明をお願いいたします。

○議 題

1. 今後の教育振興基本計画（国、県）について

<資料1に基づき、事務局より説明>

宮坂教育長： ありがとうございます。今後の教育振興基本計画を定めていく上で、今も大事にしていることと繋がることが多いかと思います。今の説明についてご意見いかがでしょうか。

太田教育長職務代理者： 大きく何かが変わるといふ雰囲気はあまり感じませんが、県の方針概要について1つ質問です。

県の概要で第3編これからの長野県教育のあり方の政策の柱で「一人ひとりが主体的に学び、他者と協働する学校をつくる」という部分の「信州教育の魅力向上・発信」に「教員志願者確保」があります。先生方の負担も大きくなっていて、教職員数の減少もあるのでよく理解できます。その後にある「生徒の全国募集」とはどのような内容なのでしょうか。

私立、公立両方含めて、長野県の学校に全国から生徒が来てもらうように方向性付けをしていくという意味なのでしょうか。

また、次の政策の柱の中に「多様な学びの場・機会の充実や民間との連携による個別最適化」があります。岡谷市でも重要課題となっている不登校の問題に関連する箇所だと思います。信州型フリースクールの認証が含まれていると思いますが、どのようなフリースクールなら認めるか、県教育委員会で認証基準を作っていくというお話を聞いています。まだ岡谷市に該当のフリースクールがたくさんあるわけではないと思いますが、市としてどのように取り組んでいくか、お考えをお聞かせいただければと思い

太田教育長職務代理者： ます。

事務局（両角）： 「生徒の全国募集」につきまして、小・中というよりは、高校や県内の大学も含めた計画と推測されるところです。詳細について、こちらで把握するものではありません。

それから、「フリースクール」につきまして、県教育委員会で認証制度の策定に向けて取り組みが進んでいます。6月の一般質問でも同じ質問質疑等に対応しました。フリースクールとは認可された学校教育施設ではなく、様々なスタイルで教育を実践している施設です。習い事や、塾から発生したこども食堂もあります。多種多様な受け皿がある中でも、一定の尺度を持つ、という県の取り組みが始まったところです。どのような認証基準が出てくるか注視をしている状況であります。

岡谷市にも長期欠席、不登校の子どもたちがおりますが、例えば学校には行けないが、フリースクールのような環境なら行けるという子どもたちもいると思います。どのような過ごし方をしているのか、学校と家庭でよく連携をして、子どもの居場所として何処が最適なのか取り組んでいく必要があり、学校でもそのような対応をしているところであります。

太田教育長職務代理者： 具体的な内容はこれからですね。わかりました。

小平教育委員： 広い範囲の計画なので、私のわかる範囲で質問をさせていただきます。デジタル化も含めて、世の中が急激に変わっていることと、教科書もデジタルになり先生たちの仕事も今後どうなっていくか、先のわからない時代になってきたことを私も日々感じています。

絵を描くことも生成AIができてしまいます。でもまだ人間ができることがあるとも思っております。これから過渡期に入っていく中で、上手くいくことと、いかないことがあると思いますが、先生方や子どもたちにストレスが掛からないような仕組みができれば良いと思います。そんな中で個人的に大事にしてもらいたいのは、繰り返して色々チャレンジしていくことです。

先ほど教育長先生のお話の中で、平和体験研修にて子どもたちが良い体験をできたとあり、とても納得しました。いじめ問題もそうですし、一人ひとりの幸せに繋がると思います。また「ウェルビーイング」という言葉を今回初めて認識しました。自己肯定感と言われてきたものと近いものと感じています。画一的な生き方や人のあり方が、ある意味ずれてきているので、幸せになれる人が多いのではないかと期待しています。

先日、美術考古館で神田さおりさんのパフォーマンスを拝見してきました。絵を描くだけではない自己表現で、踊って歌って描いていく表現でし

小平教育委員： た。彼女が最後に伝えたことは、男性らしさや女性らしさだけでなく、あなたという人に対する感謝と幸せ感をもって欲しいというメッセージ性を感じました。

最近「怪物」という映画でも、それに近いものを取り上げられていたと思います。様々なネット媒体の話題やニュースでも、例えばトランスジェンダーの話題を目にすることもあるので、思ったより身近な事であるかもしれないし、皆さんの受け入れが広がってくれば、多くの人の幸せ感に繋がるのではないかなと感じました。国の方でも「ウェルビーイング」を立ち上げているのは、本当に大事なことだと感じました。

宮坂教育長： ありがとうございます。

大事なキーワード「ウェルビーイング」について、触れていただいてありがとうございます。

藤森教育委員： 国の方針と、県の計画概要の大きな見直しということで、社会の構造が大きく変わってくる中での教育の難しさと大変さを感じたところです。

県の基本計画の中で「これからの長野県教育のあり方」が4つ掲げられていて、すべてが大切なことだと思います。多様性の時代であり、また少子化も進んでいく中で、1人の子どもを取り残さずに、教育ができる機会・場所を作っていくことがやはり大事な部分であると感じました。

現状と課題の中に経済格差による学びの機会の格差がありますけれども、やはりここ何年か、経済格差によって学びの機会の格差が大きくなり、統計によると、経済的に裕福な家庭のお子さんの方が、学力が高い傾向にあるというデータ見たこともあります。例えば公立と私立学校で、特色のある学校が、これから出てくると思います。学校間、地域間での競争も出てくると思います。その中で公立学校として果たしていく役割は、すべての子どもに学びの機会をうまく提供できることであり、ますます重要になってくると考えております。本市においても国・県の方針や計画を受ける形の中で、いかに子どもたちが教育の機会を逃すことがないように、かつ特色のあるより良い教育の場を提供していくことが重要になってくると感じました。

具体的な部分でいうと、例えば川岸学園という新しい学校の計画が具体化されていくと思います。計画の中にも試験的な試みになるかもしれませんが岡谷市ならではの形を反映して、いい学校を作っていただけたら良いと感じました。

高木教育委員： 現状と課題の中の、「同一教室、同一内容、同一進度のみによる学びの限界」についてはまさにその通りだと思います。この「ウェルビーイング

高木教育委員： の実現」という言葉について、今までの学びの限界を打ち破って、新たな学びにしていくとなると、今まで以上に、教職員の皆さんの個人的な力が必要になってくるのかと感じています。先生方も学びを深めていかなければいけない場面も多くなってくると思います。すべての子どもたちも地域の人も、先生方も「ウェルビーイング」で考えたときに、岡谷市では夏休みに先生方の研修があったり、先生方の学びの場というものも保障していますし、これから川岸学園も出てきます。先生方の学びの場も保障しつつ、みんなの「ウェルビーイング」をしっかりと考える必要があると感じました。

林教育委員： 普段生活していく中で、ものすごいスピードで世の中が変わっていることを感じます。物事を変える時にはどうしてもひずみが出てしまったり、取り残されてしまったりする人が出てくると思います。特に子どもたちに対してはそういった配慮が必要だと思います。取りこぼしが無い計画や、実際動いていくときに、先生たちを含め負担を少なく新しい時代に向かっていけるような形をとっていただきたいと思っています。

私の子どもたちも学校からタブレットが支給されていて、教科書を開くよりタブレットを見ている時間が多いことを、親として目で見えています。同時に子どもたちの視力の低下も感じています。特に小学生中学生の頃から、フォローしていく体制の必要性も感じました。

国の基本計画の方の7番の「夜間中学の設置・充実」があります。具体的な対象者や、実際にあるものなのか教えていただけますか。

事務局(両角)： いわゆる学び直しの環境作りです。中学生の時にしっかり学校に行けずに大人になってしまったという方を対象に、夜間に中学まで学び直せる環境を全県に最低1ヶ所ずつ設置していく取り組みです。長野県でも、夜間中学を設立するような動きがありますので、県主導のもとで設置が促進されています。

宮坂教育長： 委員さんたちから岡谷市の先生方の学びに関するご意見がいくつかありました。教育振興基本計画に沿いながら、岡谷市の先生方との研修等で大事にしているところを、濱先生お願いします。

事務局(濱)： 夏の教職員悉皆研修会では木村優先生にご講演いただきました。「VUCA」や、「ウェルビーイング」などのキーワードを散りばめながら、変わっていく世の中に合わせて我々も変わっていかなければならない、学び続けていかなければならないとご示唆いただきました。その後の熟議では、先生方同士が語り合いながら、2学期に向けて取り組んでみたいこと、自分の取り組みで変えなければならぬことなど話し合いをして、自分た

事務局(濱)：

ちの力を高めていこう、といった話し合いを進めました。

一人ひとりが自分のスキル研修受けるなどして高めていくだけではなくて、先生方同士が校内で、また学校という枠を超えて、学び合う中で、力をつけていただければ嬉しいと私も思っていますし、先生方もそう感じて、これから2学期に向けて取り組んでいっていただけるのではないかと思っています。

宮坂教育長：

先生方の学びも、画一的なものではなく子どもたちの個性に応じた学びが必要です。それを作り出すには先生方にも柔軟になっていただく必要があります。岡谷市では教職員向けの研修を大切にしています。

岡谷市で学べて良かったと先生方が感じてくれるような学校が、子どもたちの豊かな学びも創り出していくと思っています。

太田教育長職務代理：

私も教育委員を仰せつかって、ずっと歯がゆく感じていることがあります。現場の先生方も一生懸命努力をされていると思います。時代の変化に合わせて新しい方針で実現していこうという取り組みを、今の私の立場ですとよく理解できます。ただ職員数が間違いなく少ないと感じています。例えば子どもが聞いていようが聞いていまいが構わないという授業をするのであれば別に良いと思いますが、そうではないと思います。ますます人手が必要な計画になる中で、一番の土台はやはり先生の数が圧倒的に足りなくなっていることだと思えます。それが現実の大きな課題としてありながら、教育委員会の一員として何もできないという歯がゆさを非常に感じています。例えば定年延長だとか、再任用の強化などの、根本的な解決には至らない案しか出てこなくて、根本的にはやはり採用で先生たちを増やしていくような行動が必要だと強く思っています。何か対策をしないと手遅れになってしまう気がするのですが、私に何ができるのかという葛藤が、今回のようなお話を聞けば聞くほど余計そう思ってしまう。

小平教育委員：

先生にも充実感や、幸せ感を持ってもらわないと仕事が続かないと思います。大変だから教員数が減っている現実もあると思います。先生こそ個性を大事にしてください、画一的な教育はデジタル教科書で進めて、どこかですまづいたら、先生方の個性を活かして教えていただければ良いのではないのでしょうか。フリースクールの認可についても、あまり厳しくしない形で、様々なタイプのフリースクールが存在するという方向性も良いと思います。岡谷市は県で一番フリースクールがある、立ち位置も悪くないですし、個性的な先生がそこに入っても良いと感じました。そういった雰囲気先生方が楽しくお仕事をさせていただけたら良いと感じました。

宮坂教育長： 今年度、本市において教育大綱や魅力と活力ある学校づくりの推進プランをこれから策定していきます。今いただいたご意見や、国・県の考え方を大事にしながら、特に有用感に満たされた子どもの幸せ、「ウェルビーイング」の実現に向けて、岡谷市の実情に即した計画を策定していきたいと考えております。

また策定の際には教育委員の皆様にもご意見いただきながら、一緒に考えたいと思っておりますのでご協力よろしく願いいたします。

それでは議題1につきまして、以上とさせていただきます。ありがとうございました。

続いて議題2に進みます。

2. 令和6年度から使用する岡谷市立小学校の教科書採択について（非公開）

宮坂教育長： 議題2「令和6年度から使用する岡谷市立小学校の教科書教科用図書の選採について」ですが、教科書の採択につきましては6市町村で採択が決定してから公開となりますので、本日は非公開とさせていただきます、後ほど議論したいと思います。

それでは議題2「令和6年度から使用する岡谷市立小学校の教科用図書の採択について」は非公開とさせていただきます、報告事項に進みます。

報告事項1「令和5年6月定例会の一般質問について」を事務局より説明をお願いいたします。

○報告事項

1. 令和5年6月定例会の一般質問について（各課）

<資料3に基づき、事務局より説明>

宮坂教育長： ありがとうございます。

続きまして報告事項2「いじめ根絶子ども会議Ⅲについて」を事務局より説明をお願いいたします。

2. いじめ根絶子ども会議Ⅲについて

<資料4に基づき、事務局より説明>

宮坂教育長： 資料にある写真がとても良いと思います。会議の横の広がりや深さを感じられます。

参考までに、4つの中学校区ごとの取り組みも素敵でした。中学生がリードしながら小学校6年生と一緒に作り上げてきました。

宮坂教育長： 西部中学校では、小学校6年生と中学校3年生の2学年で「どういう関わり方が嬉しいか」というテーマでグループ会議を行いました。小学校6年生からも、中学生の今日の姿がとてたくましくて凛々しかったので、目標として残りの小学校生活を頑張りたいと言っていました。会議の目的であるいじめ根絶とは異なりますが、心に残った意見です。

東部中学校では、生徒会が自作のビデオを作り、参加者に問題提起をしました。会場には150名程いましたが、学校からリモートで参加している生徒の姿もありました。

南部中学校は、「煌り（きらり）」という活動を大事にしています。相手を傷つけない姿を模造紙に書き出して、「アサーティブ週間」を行っています。

北部中学校では日常的に「認め合いカード」というものを作って、お互いに見せ合っています。北部中の生徒がいじめ根絶子ども会議を迎えるにあたって、課題解決のために何度も練り直して、その結果改善すべきところが見つかったので有意義でしたという大人顔負けな問題解決学習を行っていました。

以上4中学校の取り組みを紹介させていただきました。

委員の皆様方からもご意見いかがでしょうか。

高木教育委員： 見学者約30名とありますが、7月25日もとても暑い日だったと思います。会議が終わった後に参加者にお会いして、おそらく更生保護女性会や民生児童委員の方々だと思いますが、子どもたちの取り組みを見てくださって本当にありがたいことだと思いました。

太田教育長職務代理人： 過去に諏訪湖ハイツで開催した時に参加させていただいたのを改めて思い出しました。心洗われるような会に今回もなったのだと思います。

参加した高校生も、その後の高校生活で会議内容が自分の中で生きているというお話を聞いたことがあります。

事務局（両角）： 市内の3高校から12名参加していただきました。市外の生徒さんたちもいましたので、全員が岡谷市出身ということではありません。しっかりとオブザーバー的に一緒になって盛り上げていただきました。

藤森教育委員： 久しぶりに大勢の児童生徒が集まって会議ができたということで、素晴らしい会になったと、写真やメッセージ文を拝見して感じているところです。

リモートで参加された学校もあったということで、コロナ禍を経て、新たなスタイルで、誰1人取り残すことなく良い取り組みだと感じました。

中学校区ごとにメッセージを出したようですが、他校の生徒と話をする機会があれば、より素晴らしい会議になると思いましたので今後の参考に

藤森教育委員： していただければ嬉しいです。

小平教育委員： とても有意義な会だと前から承知しておりますし、小学生と中学生、さらに高校生も加わり、年の幅のある参加者で素晴らしい会に発展してきていると感じました。

「アサーティブ」という言葉も子どもたちが当たり前のように、人を尊重して認めるという動きはとても良いことだと感じています。「相手も自分も大切に」というメッセージ文がありますが、相手だけでなく、自分も大切にという言葉が入っていることが素晴らしいです。やはり自分を大切にできないと、人を攻撃したくなるようなことも出てくるのではないかと感じています。いじめる側の心の問題に専門家が立ち上がったほうが良いのではないかという記事も読んだことがあります。いじめられる側の問題というよりも、いじめる側の心の問題は結構大きいのではないかと私も感じています。

今回の会議では、インターネット上でのいじめに関して話し合われるようなことはありましたか。

事務局（長谷川）： 今回の会議ではインターネット上の話題はありませんでした。

小平教育委員： 学校生活の中では、いじめ根絶が進んでいると思いますが、インターネット上でのいじめはひどい状態になっているのではないかと感じています。

子どもたちはネット上で、SNS等を使って友達との関係をどのように構築しているのでしょうか。昔はインターネットで第三者と知り合うことが危険と言われましたが、今の子どもたちは学校の関係をそのままインターネットに持っていつている部分もあると思います。そこも1つ気になる部分です。

林教育委員： この会議に参加した小学生中学生の皆さんは、自主的に参加をしたのでしょうか。

事務局（長谷川）： 参加した生徒さんの中には、生徒会の役員の方が多いです。人選は各学校の方で行っており、中には自主的に参加している生徒もいるかもしれませんが詳細まではこちらで把握しておりません。

事務局（濱）： 児童会、生徒会の役員立場で参加している子もいますし、いじめについて考える委員会の委員長や副委員長などの立場で参加したお子さんもいます。本年度は来年度に繋げるために小学校5年生にも、参加の機会を作りました。未来塾の関係で小学校に行った時に、たまたまいじめ根絶子ども会議に参加した子どもがいて、「また来年も行きたい。そのためには児童会長に立候補したい」とそんな話をした子どもたちがいたので、5年生にとっても刺激になった会議でした。

林教育委員： おそらく学年ごとにいじめの問題は異なると思います。会場の広さの問題や、内容的な難しさもありますが、3年生や4年生でも会議に参加してみたい子どもがいるかもしれません。広く参加を募る方法も模索していただければと思います。

藤森教育委員： リモートでの参加者もいたようなので、例えば各校をリモートで結べば、もっとたくさんの子が集まって、より有意義な意見交換ができるかもしれません。

宮坂教育長： コロナを経て、そういった会議のやり方も良いと感じています。ありがとうございました。

続きまして報告事項3「市史編さん準備室視察について」事務局より説明をお願いいたします。

3. 市史編さん準備室 視察について

<資料5に基づき、事務局より説明>

小平教育委員： 参考に拝見した他市の資料ですが、一般的に販売するような形になっているのでしょうか。

事務局（小池） 参考までに、清瀬市では1冊2,000円で、和光市は3,500円で販売をして、どなたでも購入できるように販売をしています。

小平教育委員： 市史が好きで買われる方もいらっしゃると思いますし、部数はあまり作らないと思いますので貴重なものになってくると思います。

事務局（小池） デジタルの時代ですので、岡谷市では昔ほど冊数は多く印刷しない予定です。買う人は、歴史が好きであったり、研究をしている方になると思います。

小平教育委員： 先月、東京でブックカフェに入りましたら、席に座ってすぐ目の前に岡谷の本がたくさん置いてあったので驚きました。

教育委員会が出した資料も置かれていたのでお店の方に聞いたら、もともとは街道の資料を集める古本屋さんだったということでした。全国の資料が集まっていたので、やはり貴重に感じて集める方もいて、形として残る物だと感じました。デジタルでも残ると思いますが市史は1つの工芸品的な意味合いもこれからは出てくると思いました。

高木教育委員： 清瀬市のこの資料も、つぶさに資料取り上げてあって、よくこれだけ集めたと思います。こういった資料から、例えば戦後どのように生き抜いてきたかを読み取ることもできると思います。本当に大変な仕事だと思いますが、資料を集めて残しておくことの重要性を改めて感じました。

太田教育長職務代理者： 拝見した資料の中で、作るのが一番大変そうな清瀬市の資料が一番気に入ってしまいました。目次だけ拝見させていただいても、メッセージ性があると感じました。一定のメッセージ性を持たせた市史の方が、淡々と事実だけを並べたものよりいいと思います。

宮坂教育長： ありがとうございます。
それでは次に、「その他」につきまして、事務局よりお願いします。

○その他

・行事等について（各課）

<各課より行事予定について説明>

宮坂教育長： ありがとうございます。
その他連絡事項等ありますでしょうか。
今までのところで何かご意見等はございますか。
本日予定しました議題は以上でございますが、全体を通して何か質問等ございますか。
教育委員さんから何か報告事項等ございますか。
それでは事務局より次回の開催予定についてお願いいたします。

事務局（両角）： 次回の定例教育委員会は
9月8日（金）9：30～ 美術考古館の3階を予定しています。
よろしくお願いいたします。

○議 題（非公開）

2. 令和6年度から使用する岡谷市立小学校の教科用図書の採択について

<事務局から議題2「令和6年度から使用する岡谷市立小学校の教科用図書の採択について」を説明し、教育委員会です承された。>

宮坂教育長： それでは、以上で本日の会議の方を終了いたします。ありがとうございました。

12時10分 終了

岡谷市教育委員会会議規則第20条により署名する。

令和 5 年 9 月 7 日

教 育 長 宮坂 享

署 名 委 員 太田 博久

署 名 委 員 高木 千奈美

調 製 職 員 白上 淳